

御遠忌特集号

震災救援の取り組み

本山からの呼びかけに応じ、大阪教区挙げて取り組んでいる東日本大震災救援金は、みなさまからの尊いお心によって、毎月集計ごとに送金されています。引き続きご協力お願い申し上げます。

大阪教区「東北地方太平洋沖地震」救援金受付状況

集計日	累積集計金額
3月末	26,595,475円
4月末	48,234,083円
5月末	58,681,894円
6月15日現在	62,601,130円

大阪教区の救援金口座

加入者名

真宗大谷派大阪教務所

郵便振替口座

00990-6-149636

ご注意

振替用紙の通信欄に「東北地方太平洋沖地震救援金」と明記ください。

ボランティア推進会議

3月11日私たちはテレビの前で真に衝撃的な光景を見せつけられました。どこまでもせり上がり突き進む大津波、巻き込まれる自動車の群れ、流されていく家屋。そのTV画面の向こうにいる人々を思うと私たちの心の中で何かが凍り付きました。被災された方々のために私たちに

何か出来ることはないか、なにをすればいいのか。「ボランティア推進会議」では震災直後から本山の動きやボランティア関係の情報を集め、会合を重ねつつ模索してきました。

まず確認したことは、被災者支援の「人・物・金」の内ただちにできることはやはり義援金だということ。それを「銀杏通信」上で、そして急遽開設しました推進会議のHP上で発表してきました。

このHPでは本山及び各ボランティア団体の動きを見ていただくためにそれらのHP・ブログを紹介しています。とくに「大谷派災害ボランティア委員会」のブログ (<http://ameblo.jp/v-saigai-orani/>) は現地からの生々しい声や、大谷派に関するボランティアの動きが見られます。ぜひご覧ください。

また、私たちは以前に「緊急災害マニュアルについての提言」を提出していました。今回の災害に際して大阪教区、教務所でそれを参考にしていたいただいたことです。今後さらに連携を密にしつつマニュアルの熟成を図っていきます。

こんなにも広い地域での巨大な災害、さらに原発問題。あの日凍り付

いた心を抱えて、私たちに何が出来るのかを問いかけながら、被災地へ想いを馳せて、息長く粘り強い被災者支援を呼びかけていきたいと思えます。今後もVメールやHPを通じてお伝えしていきます。

(ボランティア推進会議主査・長谷俊成)

仏教青年会

3月11日大地震が発生しました。「東日本大震災」と名付けられたこの地震は、大津波を伴い数多くの死者並びに犠牲者を出し、未だに行方不明の方もおられて、日本国中が悲しみにつつまれています。そして、安全をうたう原子力発電所の事故による更なる被害が、被災された方々を苦しめています。

大阪教区仏教青年会連盟(以下仏青)では、この大震災を自分たちの問題と受け止め、仏青としてできることを何度も話し合いました。

色々な意見がありました。本山の災害支援本部が白米とレトルト食品を求めているので、それらの物資を集めることにしました。その際、

教区ボランティア推進会議からの提案で「银杏通信」でも呼びかけ、仏青会員ならびに有縁の方々から集まった物資を4月19日に本山へ持って行きました。

また、他教区の仏青とも知り合いを通して繋がりを持つことができました。

奥羽教区の方からは、宗門のボランティア活動や被災された方々のケアについて、短期間でできる事から長期間でできる事など、常に新しい情報を教えていただいています。

仙台仏青の副委員長には、二度お会いし、仙台仏青の活動や被災現場の状況、メディアでは取り上げられないお話をいただきました。その中で、活動資金がたりないのとこのことで義援金を募っていると聞きまして、それを受け、仏青も協力したく義援金を集めています。

まだまだこれから、問題が見えてくると思いますが、宗門内でも、多くの方々がそれぞれ自分の問題とし、様々な活動をされていると伺っています。仏青も色々な部分で支えあっているようにこれからも活動していきます。

(仏教青年会会長・稲垣洋信)

被災者支援のつどい



↑真冬のような寒さが残る御影堂には、大阪教区始め各地からの団参で指定席が埋め尽くされ、被災者の悲しみを共にせんとする熱い心が堂内にあふれた。

3月11日に発生した「東日本大震災」にともない、3月に行われる予定でした宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌の第一期法要が「被災者支援のつどい」に変更して勤修されました。各地から同朋がつどい、被災された皆様を思いをよせながら、宗祖の御真影の前でお勤めをいたしました。

また、あわせて援助金、物資が集められ、東本願寺より被災地へと届けられました。



↑本山宗務所ロビーに集められた救援物資の整理、搬送準備に余念のない宗派職員とボランティアたち

大阪教区

御遠忌通信

御遠忌に参詣されたみなさまの声

真宗門徒の確かな歩みを

5月25日、天王寺公園からバス5台を連ねて、第2組200人が本山に団体参拝しました。参加者は、初めて上山する人や御遠忌法要を楽しみにしていた人など色々でしたが、帰途につく頃には、参拝できて良かったという声ばかりでした。

さて、御遠忌は「宗祖としての親鸞聖人に会う」という基本理念のもと、多くの方々が長い年月をかけ取り組んできました。果たして、真宗本廟を埋めつくした人々の中で、ど

れ程の方が親鸞聖人に出遇われたのでしょうか。まさに一人ひとりの問題です。

また、今回の御遠忌の直前には、東日本大震災という大きなご催促をいただきました。大災害に遭遇した私たちは、生死無常という現実、今まさに生きる上で「確かなもの」とはいつたい何かという問題をつきつけられた気がします。

この御遠忌を通して、今ここから、真宗門徒としての確かな歩みをしていかなければいけないと思えました。

(第2組光照寺門徒・中嶋ひろみ)

初めて宗祖と向き合えた

私は御遠忌法要に2回参詣させていただきました。5月28日の2度目は感話者としての参拝であり、1度目の自坊での団参の時以上の緊張感

と責任感を感じながらの参拝となりました。あの時の緊張感と責任感は何なのか、うまく説明することはできませんが、思うに、宗祖の御遠忌という場で自身が話す責任と意義が見出せなかったということにあったと思います。

私には宗祖が顕かにされた本願念仏の教えに帰依したと、

そうはつきり言えるような体験はありません。その証拠に、私はいまだに称名念仏ができないのです。「念仏申さんと聞いたつ心」が起らない、そんな自分が宗祖の御真影の前に立つて何を話せるというのか、私にはそんな資格もなければ責任も持てない、そう思いました。またそんな思いであの場に立つ自分が許せなくもあり、また怖くもあつたのです。

そんな思いのまま、私は宗祖の御真影の前に立ったのですが、その時私はなぜか自然に





絵・久世美子さん

「ああ、今私は宗祖に会うためにここに立っているんだなあ」と思ったのです。何か大きなものに包まれながら、宗祖と私が一対一で向き合っているような、そんな感じがしました。そこにはただ自身が初めて宗祖と向き合えた感動がありました。あの広い御影堂の中で、「大勢」対「宗祖」ではなく、「私」対「宗祖」の関係を感じたのです。それは私とい

う一個人が宗祖親鸞聖人という一人に向き合えた喜びでした。そしてその時の感動が、それまでの私の緊張と不安を消し去ってくれたように思います。その後、私は背中を押されるような思いで感話をしました。今思えば、私の感話の相手は宗祖だったのかもかもしれません。私は宗祖に対して話し、語り、問いかけていたのかもしれない

せん。そして、あの時の宗祖への問いかけこそが、自身がこの御遠忌に参拝し、感話させていただいた意味であったと、そう思っています。

(第4組恩敬寺衆徒・安城由紀子)

この場にいるだけで

御遠忌法要、第二期法要の日に団体参拝しました。それはタイムテーブルに乗り、管理された一日でした。

私たち一行の席はK列前半部分の50席で、定められたように威儀を正して法要の始まりを待ちました。勤行に先立ち、内局の挨拶、大学生の感話、そして法話となりましたが、その内容はモニターを通して私には正確に聴き取れず、何とも心残りのする長い時間でした。そんな気持ちで同朋唱和が始まりました。ところが、往路中のバス内でDVDによりおさらいしたのは速度が違い、取り急ぎ「往生安楽国」となつてしまいました。

時間に追われ、満たされないまま災害救援本部の報告など聞いている内に、心の整理が少しできてきました。

た。今は、勤行の速度を問うのではなく、50年に一度のこの法要にご縁をいただけたことに感謝し、この場にいるだけで、充分なのだと思います。

阿弥陀堂門を後にするとき、法要期間中にぜひもう一度参拝しようという心を決めました。そして、第三期法要の御満座に参拝し、生死無常の世界を生きる身である事をあらためて知らしめた大切な法要であったと思いました。

(第4組常栄寺坊守・久世美子)



写真で振り返る御遠忌





参詣者の心根を問われ

第1回目は1948(昭和23)年蓮如上人四百五十回御遠忌です。大谷大学予科生でしたが、動員されて団体参拝のお世話をしました。まだ高速道路ができておらず、列車での入洛でしたので、京都駅と詰所への

送迎と、千畳敷の御影堂に1万人詰め込む(一畳に10人)という役目でした。いまだ戦後の物資の乏しい貧しい生活でしたが、新しい民主日本を創るのだ!と気概が溢れていました。



2回目は1961(昭和36)年の宗祖七百回御遠忌です。一番印象に残ったのはお内陣等の荘厳です。カラー撮影(天然色撮影と言っていました)のため、フィルムもテレビカメラも感度がすごく鈍かったのでその照明がすごく明るく、まさに極楽の荘厳の様、光り輝いて息をのむ程の美しさでした。

実父が准堂衆をしておりました縁で十弟子という役をさせてもらいました。当時の新門様付で、高廊下列と内陣出仕に四天王の様にご門首の廻りを囲んでしずしずと歩きます。私は先駆でしたが、「後を見ずに、後ろの門首の歩速で歩け」と言われ、そんな馬鹿な!と思いましたが、やってみればできるものでよくやっただと言われました。

第3回目は蓮如上人五百回御遠忌で、拙寺が本山に近いので10回くらい門信徒方共々参詣、イベント等参加見学、京都駅界限もうろつきました。お祭り騒ぎでもう……。

そして今回4回目。大災害から、御遠忌そのものと参詣する私達の心根を問われるものとなりました。問題を抱えての聴聞となった各種講演会・シンポジウムは比較的若い人々

の姿が目立ち、本当に良い御遠忌になったと思うことであります。

(第10組是三寺前住職・楠 仗)

ただみ教えを信ずべし

さる4月25日、第13組では総勢

249名、大型バス6台で日中法要に参拝しました。震災後、役員会を開き第2期法要も「被災者支援のつどい」と言う名称で執り行われるながら、法要の趣旨が違うという声上がり、臨時組会を開いて意見を聞くことになりました。組会を待たずして宗務総長より「御遠忌法要として行う」と発表されて私の心は決まり、組会の場で、全員で上山しましょうと進言、異論はありませんでした。

バスの駐車場から、スタッフの方が大勢の参拝者の中をスムーズに堂内へ誘導して下さいました。椅子席であらかじめ指定番号が決まっていたので迷うこともなく着席、ほぼ満堂の状態で行われました、少し寒くてひざ掛けが有り難かった。法話を聞き、正信偈のお勤めになると一緒に声を出して唱和しました。

あるご門徒が「正信偈のお勤めはもつとスピードが速いのに、私たちに合わせてくださった」と感動しておられたのが印象的でした。

本山を後にして一路「みやこめっせ」へ。御遠忌弁当を食し、親鸞展の観覧。御遠忌村でお土産を買って全員無事に帰宅しました。

大勢の方々の心配り、さまざまなものとの関わりに感謝し、道俗時衆共に同心に、ただ親鸞聖人のみ教えを信ずべしという心境でした。

(第13組心願寺住職・松井 聰)



私に何ができるのか

宗祖の御遠忌法要は50年ごとということで、一生に一度出遇えるかどうかだとよく言われます。

50年前の私はどこでどんなことをしてたかなアと考えますと、仏様と



のご縁はありませんでしたが、それでも、一人前の顔をして生きていたように思い出します。私のことを心配してくださるたくさんの方々の気持ちにも、なかなか気づけずじです。

御遠忌の第一期法要は、東日本大震災を受けて「被災者支援のつどい」と名を変えて執り行われましたが、皆さんと一緒に同朋奉讃を勤めながら、私に何が出来るのかを

考えるとき、気の毒に思っ
て多少の義援金を出すだけ
で、どこまでも、被災した
人の気持ちに添い遂げる
ことが出来ない私という
ものに気づきます。

いま、親鸞聖人も災害と
飢饉の時代を念仏の行者
として生きられたことを
思い出して、御門首の『被
災者支援のつどい』開会
のことば」にあります「自
信教人信の誠を尽す」と
いう言葉を改めて心に刻
んだことでした。

(第19組正受寺門徒・

藤居英一)

一生に2回の御遠忌に遇えて

ご門徒さんと共に参拝して、少
し戸惑いを感じました。学生時代
700回御遠忌と今回と生涯2回の
御遠忌に遇い、時の流れの速さをし
みじみと感じました。

堂内は椅子席と知っていました
が、参拝してみると何か違和感を感じ
る。柱には、モニター。想像して
いた法要と違う。

勤行の第一声で静まり返る堂内、
静寂の中で響く声明。私の記憶に残
る700回御遠忌の光景。今、目の
前にモニターを指差し興味津々の



人々、「お静かに」のプラカードを
手に堂内を巡る係員。

法要と違うイベントだろう。この
光景に違和感を感じる私は時代遅れ
なのだろうか。一緒にお参りした、
ご門徒さん方は何を感じて下さった
のだろう。親鸞聖人には遇ってくだ
さったのだろうか。

この様な不埒なことを考えながら
も、ご門徒さんと共に参拝できたこ
と、一生に2回御遠忌に遇えたこと
を喜んでいる毎日です。

(第25組専光寺住職・田代公隆)

子ども真宗本廟体験



初夏の爽やかな日が続いていたのに、この日はお天気はよいものすごく蒸し暑い日になりました。今日はきっちり装束を着けての長いお勤め。こんな日は大人でも辛いのに、子どもたちは大丈夫でしょうか。:

参加者は小中学生の男の子8人。控えの書院で装束に着替えるのを手伝ってもらい、心得を教わっていざ出仕です!

こちらは急いで御影堂の参詣席に回って、彼らの出仕を待ち構えました。おお、出てきた、出てきた。みんなお行儀よくしてる。エライなあ。

広くて薄暗い六軸の間に着座した彼らは、参詣席から見れば豆粒のようです。たぶんご門徒さん方は気づいておられないでしょう。開式前に「今日は大阪教区の子どもたちが出仕します!」とアナウンスしてもらえたらよかったです!

のに。みなさん感心して、微笑ましく見守って下さったと思つのですけど。

さて、無事お勤めを終えて帰ってきたところでインタビュしました。どうだった? 「足が痛かった」。うんうん、そうだろうなあ。「何かもデカかった」。はあ、なるほどね。

立燭した鶴亀は自分と同じ高さだったとか、御仏供は3升もあるとか、朱蟬は一本1万3千円もするとか。裏で御仏具の説明を聞いてきた子どもたちは口々にいろんなことを教えてくれました。

大人の心配をよそに、ちゃんと頑張ってくれた彼ら。どのような印象にしる、この度の経験が本山での思い出としてしっかり残ることとは間違いないでしょう。宗門の未来を任せよう!
(平野)



「子ども真宗本廟体験」に
スタッフとして参加して

日本各地で今年の最高気温を記録した5月21日。教区の子ども達と本山の御遠忌に出仕してきました。

「子ども真宗本廟体験」というこの企画の願いは、将来の宗門を担っていくであろう小学生や中学生に、普段できない体験を通して、かけがえのない大切な思い出を作ってもらいたいというところにあると考えます。

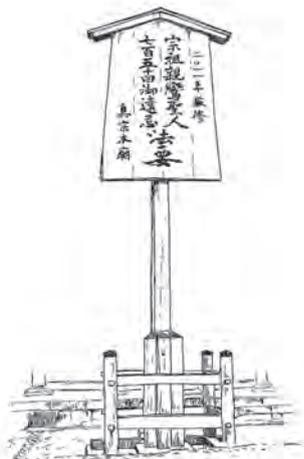
当日はその願い通り、たくさんの方の体験をさせていただきました。まるでメガホンのように大きな朱蠟燭に火をつける所を間近で見ることが、洗面器で作ったかのような御仏供に触れることも、超巨大な鶴亀と背比べをすることも今まで経験したことがなく、子どもたちは目をキラキラさせながら「すごい、すごい」を連呼していました。子どものみならず私たち大人でさえも、そんな体験は普段できないことなので、いつのまにか子どもと大人が入り混じって、ワイワイ言いながら、仏具の重さや、過去から受けつがれる歴史の重さを

感じることができました。

また、自坊以外で衣体をつけることひとつとっても、子どもたちには新鮮です。猛暑のなか、汗をかきながら一生懸命に衣体をつけて法要のぞみます。参加者しかいない書院では元気がいっぱいだったみんなも、出仕者が集まる控室に移動すると、緊張から引き締まった顔つきになり、静かに座っている姿を見た時、一人の僧侶としての自覚が顔つきに表れているようにも見えました。

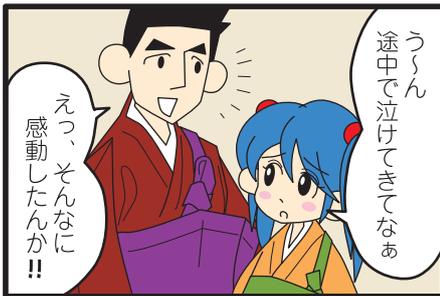
今回、「子ども真宗本廟体験」の一日で、子どもたちは何かを感じ、これからの僧侶としての生活になにかしら影響を与えられたならば、その手伝いができてよかったですと思っています。

(第5組 浄琳寺候補衆徒・森 広樹)



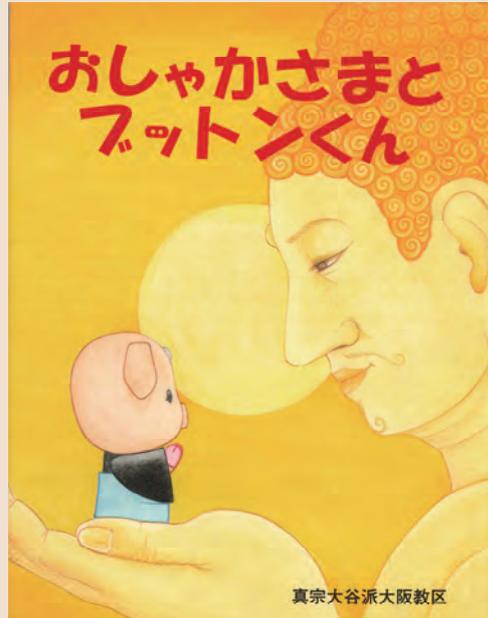


次の御遠忌の時は 編



② また「一巻」に出よ
① ムリムリ

教区出版物のご案内



絵本『おしゃかさまとブットンくん』をご存知ですか？
同作は各寺院での子ども会などで広く活用いただくことを願いとし、大阪教区出版会議にて製作されました。大阪教区御遠忌キャラクター「ブットンくん」の生みの親、北島玄氏が作画を担当。温もりのある絵に、「ブットンくん」誕生秘話も描かれており、子どもから大人まで楽しめる一冊です。

ただいま、大阪教務所にて頒布中です。サイズは通常の絵本よりひと回り大きく(30.5×24cm)、頒布価格は1,000円です。10冊以上お求めの方は1割引させていただきます。
ご注文は大阪教務所(06-6251-4720)まで。

◆ 本山の御遠忌法要、終わってしまいました。今号の「しゃりりん」は御遠忌特集号としてお届けします◆あの大震災の余波が続く中で、何かを学べたのでしょうか◆交通の不便もなく、席の苦勞もなく、食事の心配もなく、すばらしく優しい御遠忌だったと思うのですが、その反面、「お客さん」になってしまった自分を感じています◆エリック・レイモンドという人の「伽藍からバザールへ」という言葉があります。元々はコンピュータの世界のものなのですが、単純に言うところの指示で多くの人で何かを作るより、小さな集団が自由に動き、それをビルドアップしていく方がよいものができる、ということ。修復かなった御影堂の美しい姿を眺めながら、ふとこの言葉を思い出してしまいました◆まだまだ、今度は大阪教区の御遠忌が2年後に控えます。そんな中、もう一度、宗祖の御遠忌をお勤めする意味を問うていかなければならないと感じました。(S)

発行日:2011年6月30日
発行所:真宗大谷派大阪教務所
大阪市中央区久太郎町4-1-11
TEL06-6251-4720

発行人:五辻信行

- 編集:
- 第4組 常樂寺・久世見証
 - 第9組 淨圓寺・難波美千子
 - 第10組 是三寺・北川浩三
 - 第12組 清澤寺・澤田 見
 - 第16組 即得寺・大戸俊彦
 - 第17組 法観寺・廣瀬 俊
 - 第25組 南林寺・藤林容子
 - 第27組 願隨寺・平野圭晋
 - 第27組 信證寺・吉内利彦

<http://www.icho.gr.jp/sharin/>